

調査の趣旨と実施方法

(1) 概要

- ・今後の多文化共生意識普及イベントの内容について検討し、平成 29 年度に策定予定の次期「ふじのくに多文化共生推進基本計画」基礎資料とするため、日本人県民と外国人県民を対象に、多文化共生に関する意識や生活実態等を把握するためアンケート調査を実施する。
- ・調査は県多文化共生課が実施し、調査結果の集計、分析、報告書作成等は、静岡文化芸術大学池上重弘教授に委託した。

(2) 調査対象の範囲

ア 対象者等

(単位：人、%)

対象者	県内に住民登録のある 16 歳以上の外国人県民及び日本人県民
対象国籍	平成 27 年 12 月末現在の県内の上位 7 か国（全体の 88%）及び日本 7 か国の内訳：ブラジル、フィリピン、中国、韓国・朝鮮、 ペルー、ベトナム、インドネシア
対象市町	外国人人口の上位 5 市（全体の 60%） *ただし、磐田市は同様の調査を平成 27 年度に実施のため除外 【西部】浜松市、掛川市 【中部】静岡市 【東部】富士市、沼津市
抽出方法	対象市に対し、住民基本台帳から外国人は国籍別に計 5,000 人、日本人は 2,000 人、計 7,000 人を無作為抽出。

イ 市別対象者数（各市の抽出数は人口比で按分）

番号	市名	外国人計	ブラジル	フィリピン	中国	韓国・朝鮮	ペルー	ベトナム	インドネシア	日本人
	県内計	5,000	2,000	1,000	1,000	250	250	250	250	2,000
1	浜松市	2,798	1,423	463	369	85	165	153	140	767
2	静岡市	800	93	172	307	102	11	52	63	685
3	掛川市	503	251	106	96	6	18	7	19	111
4	富士市	531	201	114	117	30	34	19	16	245
5	沼津市	368	32	145	111	27	22	19	12	192

(3) 回収結果

国名	有効数 ¹⁾	回収数	回収率 ²⁾ (%)	日本語版回答率 ³⁾ (%)
ブラジル	1,953	501	25.7	26.7
中国	974	253	26.0	32.4
フィリピン	983	208	21.2	27.4
ペルー	244	60	24.5	28.3
韓国・朝鮮	250	61	24.4	70.4
インドネシア	233	70	30.0	25.7
ベトナム	241	44	18.3	34.0
外国人計	4,878	1,197⁴⁾	24.5	30.6
日本人	1,991	879⁵⁾	44.1	-
合計	6,869	2,076	-	-

1) 有効数は送付数から未達数を引いた数

2) 回収率は有効数に占める回収数の割合

3) 日本語版回答率は回収数に占める「やさしい日本語」版調査票での回答者数の割合

4) 外国人調査の回収調査票のうち、有効回答数は1,193であった。

5) 日本人調査の回収調査票のうち、有効回答数は874であった。

(4) 調査項目

ア 日本人調査項目

基本属性	性別、年齢、居住市、子どもたちの居住地、通算滞在年数、現在の居住形態、自治会加入、婚姻状況、配偶者の国籍、学歴、就業形態、職業、週あたりの労働時間、従業員数、平均収入、5年後の生活の見込み
多文化共生に関わること	外国での居住経験、日常生活での英語使用、外国人との付き合い、外国人と顔を合わせる頻度、外国人への親しみ、多文化共生に関する意見、行政の取り組むべき課題、外国人増加の影響

イ 外国人調査項目

日本語と英語の能力	日本語での会話能力、日本語を読む力、日本語を書く力、今後の日本語学習希望、英語の能力
社会との関わり	生活情報の入手方法、情報収集のツール
日本での生活	現在の住居、自治会加入、日本人との付き合い、日本人への親しみ、相互理解のために必要なこと、団体や行事への参加、生活への満足度、自身の平均月収、世帯全体の平均月収、母国への送金、日本での貯蓄、今後の日本での生活予定、帰化の意向の有無、帰化の意向の理由、被差別意識
災害への備え	災害への準備、大規模地震の知識、「やさしい日本語」ガイドブックの認知

現在の仕事	現在の仕事、現在の仕事の情報入手経路、勤続期間、直近の勤務時間、現在の業種、現在の職種
これまでの仕事	来日初職の仕事、来日初職の職種、来日前の母国での職種
健康状態や心配事	現在の健康状態、直近の気分、5年後の生活状況の見込み
行政に望むこと	市役所や県に望む行政サービス
同居者	同居者人数、同居者の続柄
配偶者との関係	結婚の有無、配偶者の国籍
子どものこと	子どもの数、同居する子どもの数、同居する子どものうち0～15歳の者の数、子どもの性別、年齢、出生地、来日年、学校、食事、言語
子どもの将来	子どもに望む学歴、進学の問題、日本での生活の希望、子どもに就いてもらいたい職業

(5) 調査の受託者及び研究チームの構成 (【 】内は本報告書の執筆分担)

調査受託者

池上重弘 (静岡文化芸術大学文化政策学部教授) 【概要、日本人調査】

研究協力者

イシカワ エウニセ アケミ (静岡文化芸術大学文化政策学部教授)

竹ノ下弘久 (上智大学総合人間科学部教授)

【外国人調査】

(基本属性、日本語と英語の能力、社会との関わり、日本での生活、災害への備え)

千年よしみ (国立社会保障・人口問題研究所国際関係部第一室長)

【外国人調査】

(健康状態や心配事、行政に望むこと、一緒に住んでいる人、配偶者との関係、子どものこと、子どもの将来)

中川雅貴 (国立社会保障・人口問題研究所国際関係部研究員)

【外国人調査】

(現在の仕事、これまでの仕事)

調査資料とりまとめ協力

光岡香菜子 (静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科4年)